＜学校運営協議会＞＜地域学校協働本部＞

連携協働通信「架け橋」

令和5年1月6日

横浜市教育委員会　学校支援･地域連携課　発行　NO. 29

各学校や地域における地域学校協働活動の推進を目的に、地域と学校の連携・協働に関する情報を発信する連携協働通信「架け橋」を発行しています。当課の Web サイトでもご覧いただけます。
https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/chiikirenkei/gakkoushien.html

学校運営協議会委員、学校・地域コーディネーター、教職員　合同研修　報告

学校運営協議会と地域学校協働本部の一体的推進に向けて！

10 月 21 日（金）、10 月 31 日（月）に、学校運営協議会委員、学校・地域コーディネーター、教職員を対象とした合同研修を実施しました。この研修のねらいは、「学校運営協議会と地域学校協働本部が一体となって子どもたちを育むため、地域とともにある学校づくりをめざし取り組まれている好事例を発信し、地域と学校の連携・協働をより一層推進する」ことです。具体的な活動事例として、平沼小学校、東山田中学校からご提案いただきました。

平沼小学校　寺岡 徹校長

平沼共育ネットワーク　楠 恵美子氏

＜平沼共育ネットワーク～発足から 10 年～＞

・学びの場のコーディネート
【平沼に生き 平沼から輝く子】
地域と学校が連携・協働し、平沼の子どもたちの成長を支える。

・共育ネット発足前から続く取組
「本よみ隊」「見まもり隊」

・平成 23 年度以降、発足後の取組
「水泳サポーター」「給食サポーター」
「図書室環境整備ボランティア」
「グリーンボランティア」
「全校遠足や学年遠足の見まもり」
「教科等サポーター」「校外学習の支援」

・サポーター登録の流れ

・平沼フェスティバル 2021 での実践
11 講座＋オンライン講座を実施
（ボッチャ、科学実験、プログラミングなど）

・今年度からの新たな取組
「放課後学び場事業」

＜東山田中学校　コミュニティスクールとしての実践例＞

・学校教育目標　学びあう私たちが目指す姿

「正解から回答へ」「思考から試行へ」「成功から成長へ」
【知　徳　体】進取の精神と広い視野を持ち、自己実現に向けて努力する生徒
【徳　公　開】自他の良さや違いを認め合い、それを集団や社会の中で生かしていく生徒

・東山田中学校ブロック学校運営協議会

教職員、生徒会本部役員との懇談　小中一貫教育の推進　地域学校協働本部との連携
授業参観・視察・研修　学校関係者評価の実施
「学校の最大の応援団であり、辛口の友人」

・課題の共有

会議の工夫
　・・・司会を行うのは会長　オンラインの活用　熟議ができるようにファシリテート
　　安心して本音が言える場　必要に応じて教職員、生徒会生徒も参加
　　「単なる報告会やセレモニーにならないように！」
ストロングポイント（場の力、教育材）の活かし方
　・・・子どもも大人も一緒につどい学ぶ場　地域と学校をむすぶ場
　　（校内にあるコミュニティハウス）

・行動の共有

キャリア教育のサポート
　・・・１年生 プロに学ぶ　２年生 課題解決　３年生 模擬面接
協議会でのつぶやきから、学校の困り感やニーズの解決
　・・・百人一首部の畳寄贈　地域の竹林より竹細工材料　教員の美術工芸教室への参加

・成功体験

外部講師による様々な学びの機会　ボランティア活動　部活動生徒の活躍の場
落ち着いて学校生活の維持　コミュニケーション能力の向上

・今後の課題

学校運営協議会と地域学校協働本部と学校の協働体制の強化　工夫発展、継続

東山田中学校　小林 祐樹校長

提案を受け、参会者の皆さんで
「これからの自校の地域と学校の連携・協働の方向性」
をテーマにグループワークを行いました。

研修振り返り（自由記述）

＜学校運営協議会委員、学校・地域コーディネーター＞

・他校との交流は、新たなつながりができるので大変うれしい時間。
　今後もグループワークをお願いしたい。
・グループの中に校長先生、教務主任の先生もいらっしゃり、様々な角度からの意見が聞けた。
・それぞれが抱えている悩みなども知ることができ、参考になった。
　「地域で子供達を育てよう!」という大人が沢山いる事を、とてもうれしく思った。
・立場、地域、小・中学校の違いなど、実に多様性があるということを実感した。
・小・中学校でそれぞれコーディネーターとしての活動内容や依頼が違う事を改めて実感した。
・背伸びせず出来ることをやっていけばいいのだと少し心が軽くなった。
・やりたいことがたくさんあるので、一つ一つ実現していきたいと思う。
・今年度発足したばかりなので、まず活動を周知したいと思う。
　学校のニーズを正確に理解し、活動内容を深めていきたい。
・イベントカレンダー（中学校１校・小学校３校）を作ってみたい。
・学校運営協議会のあり方を会員の方々に詳しくお知らせするのも大事だと思う。
　会長が司会進行するともう少しリラックスした会議になるのではと思った。
・地域のネットワークがある実践校がうらやましく感じた。
・学習支援での悩みがたくさんあるので、ポイントを絞った取組の報告も聞きたい。

＜学校関係、教職員＞

・協議会やコーディネーターが、実際どういう考えで何をするところなのか分かっていなかった。
・地域の方の力は大きく、自分の知らないところで宝が埋もれてしまっているのではと思った。
　もっと地域の方と話し、協働していけるようにしていきたい。
・地域と学校をつなげていくために、何が必要なのかを考えながら行動したい。
　何か困ったことがあれば、地域に相談したい。
・今年度、地域学校協働本部を設置した。
　今までの教育活動でやっていた事が形式となった感じがする。
　自校での活動を整理し学校・地域コーディネーターと協力したいと思った。
・人選が大切ということが分かった。
　本校の実態や学校教育目標をもとに、管理職と話を進めていきたい。
・コーディネーターの方に活動にあたっての視野を広げてもらえるような投げかけをしたい。
　コミュニケーションを増やすことが大事。
・勤務時間の中で、地域と連携・協働できることがあればとても良いと思った。
　働き方改革なので、お互いに負担が増えないのが一番の持続可能への近道だと思う。
・予算の使い方、執行の方法、会計処理について、もう少し詳しく知りたい。

地域学校協働活動を通じた学校運営の改善研修③ 報告

「ナナメの解決策」で、地域学校協働活動を促進！

11 月 28 日（月）、12 月 1 日（木）に、教職員のみを対象とした研修を実施しました。
この研修のねらいは、次の 2 点です。

・学校教育目標の実現に向けて、学校運営の PDCA サイクルを推進するために、学校運営協議会、学校・地域コーディネーター、地域学校協働本部の役割を再確認する。

・「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」の育成のために、教育課程の中に地域学校協働活動を位置づける。

講師に、認定 NPO 法人 こまちぷらす理事長　森 祐美子氏をお招きし、
「何故、社会とつながる学びが必要なのか」をテーマにご講演いただきました。

認定 NPO 法人 こまちぷらす理事長　森 祐美子氏

困りごと、課題感を解決するために
必要なアクションは？
アクションを起こすことで、
「解決した後の姿」は実現できる？

「自分・自分たち」を主語に！

©超福祉の学校プロジェクト @
NPO 法人ピープルデザイン研究所 /認定 NPO 法人こまちぷらす

＜何故、社会とつながる学びが必要なのか＞

・協働事例

「ウェルカムベビープロジェクト」　出産祝いの背守りづくり
「おむつ自販機」　東京キリンビバレッジサービス株式会社と花王株式会社で開発

・協働の考え方

目的は違うのだが、同じ目標を達成することで、各目的を達成
それぞれの「したいこと」が違う、という前提のもとに、「共通の目標をつくる」

参考 /一部引用： WAM 主催オンライン学習会「地域共生社会に必要な連携とは何か？」松原明氏資料より

・協働のためのポイント

目標に賛同する参加者が、関わる中で安心し、楽しいと感じ、元気になること。
そのために、個人の意志や想いが起点にあること
価値創造は、その意志や想いを持つ個人が、周囲を巻き込むことから始まるということ
＝　つながるということは、まず、自分自身とつながること

研修振り返り（自由記述）

<協働のためのポイント、心に残った言葉、考えたこと>

・地域連携によって、子供も教員も地域も楽しく元気に安心できること。
・地域とつながる前に、自分の原点や自分とつながること。
・協働として何をしなくてはいけないか、ということではなくて、それぞれの思いを話したり聞いたりすること、更にはもっと立ち返って自分のことを語るということ。
・「何をするか」より「思い」が大切ということ。頭でっかちにならないというのも大事。
・どの取組も「必要感」「相手意識」「喜び」というものがついている。
思いをもつこと、自分の「きっかけ」から立ち戻ること。
・「できる、できない」だけではなく、その人の当事者性が強みであり専門性であるということ。「自分らしさ」が強みになる。
・自分たちの生活が誰かの仕事の上でできているように、知らない、気付かないうちにつながりがあるということ。誰かのニーズは、より過ごしやすい社会につながり、支え支えられる関係性やプラスの気持ちなどいろいろなものの循環を生み出すということ。
・先生が地域を好きになること。
・子どもを軸につながること。互いに「よい思い」を共有すること。
・「やらねばならない」から「やりたいな」という意識改革。持続可能で誰でもできるように。
・「やらされている感」にならないよう、何のための連携・協議なのかを明確にして進めること。

<今後の実践へ向けての思い、意欲>

・地域との協働についてはかなり重たい課題であると考えていたが、まずはきっかけとして（目的やゴールを決めることなく）話をしてみることが大事。
・ウェルカムベビープロジェクトのように、こちらからどんどん地域へつながっていこうとする第一歩がまず大切。
・大変と思うのではなく、子供や関わる人たちで楽しみながら作りあげていけると良い。
・今まで何となく避けてきた、負担だと思っていた地域との連携・協働も「やっていて楽しい、元気になる」ということをベースに考えて、自分に何が出来るかを考えていきたい。
・まずは、地域とのつながりについて、何のために行うかということを自分だけでなく教職員全員で考えていきたい。そして、子供達にとってどのような地域とのつながりが必要か考えたい。
・「他者とつながるためには、まず自分とつながらなければ。」その通りであると感じた。子供たちに、まず自分とつながらせていきたい。
・自分が具体的にできる取組としては、総合（横浜の時間）の活用だと感じる。クラスの子たちができること、地域の人たちができることをつないでいきたい。
・地域連携に後ろ向きの教員に「いいものだ」と体感させて主体的になれるよう、きっかけ作り（しかけ）を検討していく。
・様々な場面で地域とつながってはいるが、毎年新しいことをやる、というよりは前年度をなぞって同じかかわりを繰り返しているように感じている。子供たちのために「新たな価値を創造していく」ために、どう動いていくべきなのか考えていかなければいけない。

学校運営協議会の設置について

各学校におかれましては、学校運営協議会の運営や地域学校協働活動において工夫しながら実施をしていただきありがとうございます。地域との調整など様々な事情により、今年度までに設置ができなかった学校においては、来年度４月の設置に向けて１月中に書類と名簿の提出をお願いいたします。設置に向けて、地域との調整や委員の選定、既存の組織の運用において、まだ時間が必要な学校については、設置に向けた相談や地域の方や委員になられる方への説明など、必要に応じて承ります。その場合は、ぜひご連絡いただければと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

学校運営協議会の令和5年４月設置について

	学校運営協議会　設置の機会
設置日	令和５年４月１日
申請書提出の締切日	**令和５年１月31日（火）**

○申請の際は、設置申請書と名簿を合わせてご提出をお願いします。

※現在、単独設置の学校運営協議会を、複数校による合同協議会に切り替える場合、また複数校から単独での協議会をご検討の場合、次の点にご注意ください。

①合同で立ち上げるまでの間、単独での学校運営協議会設置校として活動や取り組みを継続する必要があります。

②合同協議会または単独の協議会への移行について委員への丁寧な説明が必要だと考えます。

③協議会移行の際は再度、申請書と名簿の提出が必要になります。

※設置に向けてお困りの際は、学校支援・地域連携課にご連絡ください。

学校・地域コーディネーターの配置について

令和5年度　学校・地域コーディネーターの配置について

学校運営協議会と同様に、地域と学校を繋ぎ、総合調整を行う「学校・地域コーディネーター」の配置を継続して進めています。

「学校・地域コーディネーター」は学校長の推薦が必要で、学校長の推薦を受けた方に、年間５回の「学校・地域コーディネーター養成講座」を受講していただいています。来年度の推薦に向けて新しく学校・地域コーディネーターの配置を考えている場合は推薦のご準備を進めていただきたいと考えています。

また、複数人配置することで活動が活発になることも考えられますので、お仲間を増やすこともご検討ください。推薦は、令和５年４月中旬より開始予定です。推薦をもって６月より開始される学校・地域コーディネーター養成講座受講可能となります。どうぞよろしくお願いいたします。

何かお困りなことがありましたら、いつでもご相談ください。
学校支援・地域連携課　６７１－３２７８